

メキシコ：大学ストとその波紋(海外だより)

著者	星野 妙子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	4
号	2
ページ	24-25
発行年	1987-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006690

メキシコ▶大学ストとその波紋

私がメキシコで籍を置いたコレヒオ・デ・メヒコの年中行事の一つに、職員スト予告日前日の引越しがある。年に1回、多い時で2回、研究室や事務室から文献、書類を詰めたダンボール箱、機械、タイプ・ライター等が運び出される。1日がかりの大仕事であるが、これをやらないと、もしストに突入した場合、途方に暮れることになる。もっとも最近タイム・リミットぎりぎりまで交渉妥結、スト回避が通常のパターンとなってきた。しかしそうなれば今度は運び出したばかりの大荷物を運び込まねばならない。どちらにしても大変な労力と時間の浪費である。

この恒例の引越しが2月2日にまた行なわれた。しかし今回違ったのは、すぐに大荷物をもとに戻す必要がなかった点である。2年ぶりのスト突入であった。

職員組合がストを掲げて賃上げを迫るのには十分の理由がある。1982年以来賃上げ率はインフレ率を大幅に下回り、この5年で職員の実質賃金は半減しているのである。にもかかわらず2年間ストが行なわれなかったのは、政府の強力な統制があり、組合員のなかにストを打っても得るものはなにもなしという無力感が広がっていたことによる。今回ストに突入したのはこの無力感を払拭するような事態が生じたためである。その事態とは、メキシコ国立自治大学（以下UNAMと略）の学生ストであった。

UNAMは、学生数30万（付属高校を含む）、教職員5万を抱えるメキシコ随一のマンモス校で、その動向がメキシコの政治、社会に及ぼす影響はきわめて大きい。そのUNAMで昨年9月に大学改革をめぐり大学当局と学生の間で紛争が持ち上がった。発端は、UNAMの行政の最高決定機関である大学審議会が主要3項目からなる制度改革を決定、87年8月より実施すると発表したことにあつた。その3項目とは、（1）付属高校からの無試験入学の見直し、（2）学部共通試験の実施、（3）授業料の徴収であった。学生にとっては既得権益の大幅な侵害である。主要な学部、分校、付属高校

等さまざまなレベルで反対運動が組織されそれらの運動体は10月31日に大学学生審議会を結成し、そこに結集した。

ところで、大学当局が学生の抵抗を十分予想しながらも、それでもなお制度改革に着手しなければならなかったことにはそれなりの理由がある。その理由とは、第1に財政赤字、第2に学術水準の低下であった。

UNAMは国立大学であり、その予算の全額を政府に依存している。その政府の懐具合は長年の財政赤字の累積で目下非常に苦しい。財政緊縮・立直しは現政権の主要な政策の一つとなっている。UNAMの財政赤字はこのような政府の政策のあおりを受けたものといえよう。大学予算は前年比では伸びているもののインフレにより大幅に目減り、しかもその8割強を人件費に取られ、学術活動に回される予算はごく限られたものとなっている。しかし人件費の比率が高いからといって、UNAMの教職員の給与が恵まれているわけではない。コレヒオの場合と同様、インフレによってこの5年間に実質賃金は半減しているのである。

制度改革の第2の理由である学術水準の低下は上述の財政赤字とも関連しているが、さらに、「大衆のための開かれた大学」というUNAMの教育理念とも関わるもので、それだけに問題の根は深い。制度改革の内容からうかがわれるように、従来、UNAM大学部への入学は付属高校と認可校からは無試験、授業料は無料、さらに、在籍年限は無制限という非常に寛大なものであった。しかし、「開かれた」大学が反面意味するところは、勉強しない学生にも開かれているということであり、UNAMの学生の全般的な学力の低下は覆いがたい事実となっている。一方学生数の急増に伴う組織の肥大化は、官僚主義、非能率、腐敗を生むこととなった。カルピソ学長は昨年4月に「UNAMの強さと弱さ」と題する声明を発表している。そのなかで現在UNAMの抱える問題の一つとして、「勉強しない学生、教えない教官、働かない職員」の存在を指摘しているが、その指摘は

市民の間には、多数の死者を出した 1968 年の学生運動弾圧の再現を懸念する声もあったが、幸いにも杞憂に終わった。今回の紛争に対して、政府は終始静観の構えであった。もっとも裏の動きは

ところで、コレヒオではスト解除後早々にそこ
ここで恒例の大荷物運び入れが始まった。しかし
今回私は運び入れを見合わせた。帰国を間近にひ
かえていたためである。空になったわが研究室で
過ごした最後の2週間、メキシコの厳しい現実が
身にしみて感じられた。